

頼りにしている」と返答した。さて、山崎の戦では、秀吉の先陣をつとめた高山右近と中川清秀が明智の先陣を突き崩した時、順慶も八幡山から進軍し、淀川の周辺で戦いに敗れた敵を五、六百人ほど討ち取り、その首を秀吉へ献上した。秀吉は、順慶の行動について、形勢を窺っていたのではないかと考えたが、自軍に加勢したことに關しては満足であるとして、信長の時代と変わることなく大和国の大将であるべき旨を順慶に命じた。この時から順慶は秀吉に従って各戦場に赴いたが、その後間もなく死去した。

順慶の養子である筒井定次が、引き続き大和国の大将に命じられた。秀吉が天下統一を成し遂げた時、天正十三年（一五八五）、筒井定次へ伊賀<sup>が</sup>国を与え、定次は伊賀守に任じられた。大和国については、秀吉の弟である羽柴秀長に紀伊・和泉・大和の三ヶ国を与えた。秀吉の指示により、筒井城は取り壊され、郡山に新しい城を築いた。その城郭の区画も秀吉の指示によるものが現存する。また、国侍は秀長の家臣となった。

天正十九年（一五九一）正月二十二日、羽柴秀長が死去すると、養子の羽柴秀俊（秀保）を中納言とし、三ヶ国を変わりなく与えた。間もなく、文禄三年（一五九四）、秀俊は思いもかけず急死した。秀俊は豊臣秀次の弟であり、秀長の死後養子に命じられたとも噂されている。一説には吉野<sup>とつかわ</sup>十津川の湯を見に行った際、川岸の高い崖の上から下を見て、そばにいた小姓<sup>こしやう</sup>に「この淵に飛び込むか」といったので、その小姓はそのまま秀俊を抱きかかえて淵へ飛び込み、秀俊も小姓も共に死去したという。跡継ぎもいなかったため家は断絶し、国侍は皆もとの領地を離れ浪人となった。

その中の大将格は箸尾・布施・十市の三氏であった。秀吉はこれらの者に領地を少しずつ与え、郡山城へは増田<sup>ました</sup>長盛を遣わし、二十万石の領地を与え、紀伊・和泉・大和三ヶ国の代官に任じた。郡山城には外曲輪<sup>そとぐるわ</sup>がなかったので、長盛はこのことを秀吉に伝え、外曲輪を作り上げた。

秀吉死後、慶長五